日本・フィンランド間の産学共同研究 －ワークショップ‘Wrapping the Body’と Fashion Exhibitionの企画・デザイン－

水谷由美子

A cooperated study between industry and the academic world among Japan and Finland; Workshop ‘Wrapping the Body’ and Planning and Design for Fashion Exhibition

Yumiko MIZUTANI

ワークショップ‘Wrapping the Body’とFashion Exhibitionの企画・デザインを実現するための背景と課程についてまず述べる。

2002年の4月から9月までの6ヶ月間、筆者はヘルシンキ芸術デザイン大学大学院のファッションデザイン研究科に在籍し、授業を担当した。そこで、筆者が所属する山口県立大学と上記大学との共同研究が将来できればと考えた。

ヘルシンキ芸術デザイン大学ピイッパ・ラッパライネン教授の紹介で、フィンランドを代表するファッションとテキスタイルのブランドであるマリメッコ本社（ヘルシンキ市）を尋ねた。そして、2002年12月に筆者のグループが実施予定のクリスマスファッションショー（山口市）のための素材提供をお願いした。すぐに本社の広報担当者やデザイナーには快諾を得たが、実行には少し手間取った。なぜなら、輸出担当者が日本における輸入業者に気を使ったからである。筆者の帰国直前に、マリメッコのファッションおよび小物などを対象とする、日本における輸入総代理店エム・アールト株式会社（東京）から電話があった。内容は、日本の他企業との調整を取り、実際の商品として販売しないことを条件に許可が下りたということだった。

そこで、帰国後すぐにエム・アールト株式会社に挨拶に行った。それをきっかけに関谷純一社長以下、スタッフの方々との交流が生まれた。上記のクリスマスファッションショーはフィンランドをテーマに実現した。その成果をヘルシンキの本社に報告に行き、好評を得たので、すぐに次のプロジェクトへの協力を要請した。その結果、2003年10月にヘルシンキ芸術デザイン大学大学院の学生を対象にしたワークショップ‘Wrapping the Body’にマリメッコ社から素材が提供された。実践を含む講義を通じて日本の着物や風呂敷に託された精神文化や物理的特徴を伝達し、学生はそこから着想を得て制作を試みた。実際に完成した作品15点ほどから4点が上記大学のファッションショーで発表された(写真1)。その後、それらの作品と2002年のクリスマスファッションショーの作品および2004年度の山口県立大学大学院生を対象とするワークショップの作品を追加して、展覧会を実施することになった。

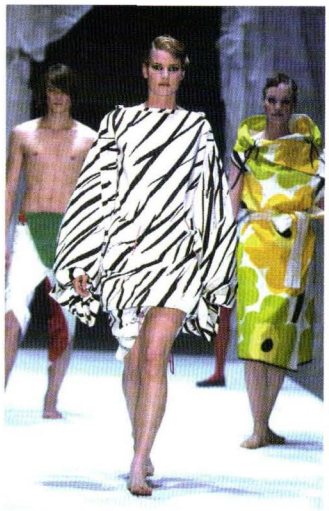
エム・アールト株式会社との継続的な交流がきっかけとなり京都（キートス2階ギャラリースペースにおいて　8月）での展覧会(写真2・3・4)の企画が始まった。それが発展して、東京（フィンランド政府観光局主催、エム・アールト株式会社協力、スペース・フォースにおいて　10月　写真5・6・7・8）そして山口（有限会社ナルナセバにおいて10月）と一連の展覧会が実現した。

最後にこの場をお借りしてマリメッコ株式会社、エム・アールト株式会社、フィンランド政府観光局、ヘルシンキ芸術デザイン大学、有限会社ナルナセバに深く御礼を申し上げます。

日本およびフィンランドの学生たちは、それぞれが現代のモードを構造的に見直す結果となった。授業やワークショップを通じて、フィンランドの学生には日本の伝統的な服飾文化に興味が持たれ、新しいジャポニスムの風が吹いているモード界において、大いに参考になったようだ。

2004年4月に来山したヘイディ・ヴィカール（フィンランド2004年ヤングデザイナー・オブ・ザ・イヤー）が2004年12月のクリスマスファッションショーVol.Ⅲで発表した作品(写真9)はその証左である。

写真１　ヘルシンキ芸術デザイン大学ルメホールでのファッションショー　2004年5月
写真２　マリメッコを直営するエム・アールト㈱の店舗「キートス」の外観
写真３・４　キートス２階ギャラリースペースでの‘Wrapping the Body’の展示風景　2004年8月
写真５・６　スペース・フォースの外観、入口の展覧会ポスター　2004年10月
写真７　スペース・フォースに筆者たちと同時に展覧されたマリメッコからデビューした新留直人の竹繊維を使用した作品
筆者が新留氏を2002年に山口でのクリスマスファッションショーに招聘したことがきっかけとなり、毎年、彼を呼んでプロジェクトを実施した。2004年秋実施予定の萩の竹プロジェクト、萩開府400年記念「竹が創る21世紀」ステージイベント「竹を着る　－日本＆フィンランドの風－」（萩市民会館大ホール）に向けて、東レ株式会社から爽竹の提供を受け、新留氏をデザイナーとして招聘することにした。そのプロセスの中で、マリメッコから新留氏が竹繊維を使うコレクションを発表しデビューした。
写真８　スペース・フォース内での‘Wrapping the Body’の展示　2004年10月
写真９　ヘイディ・ヴィカールの作品　2004年12月
H. ヴィカールから、彼女は2002年に筆者がヘルシンキ芸術デザイン大学大学院にて実施した「着物」に関する講演会に参加して着物に興味を持ったと聞いた。それ以後「一枚の布」からのミニマルな造形を目指す服飾作品を多く発表している。



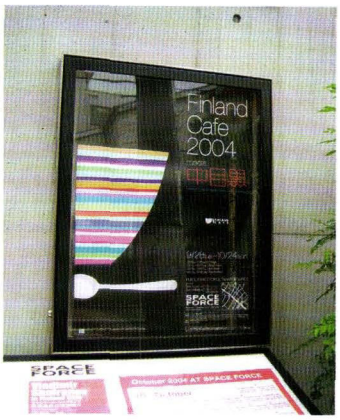
1

9

marimekko
ANNIKKI KARVINEN

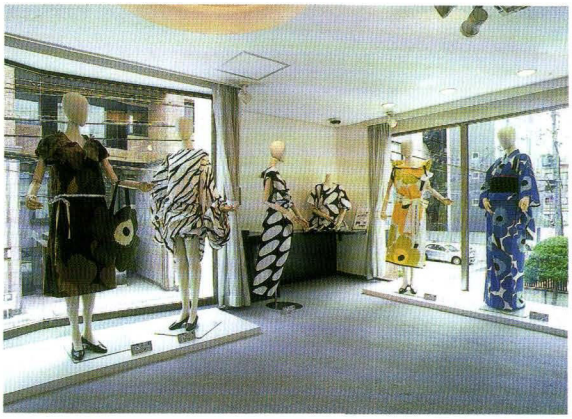
2

5


Finland
Cafe
2004

6

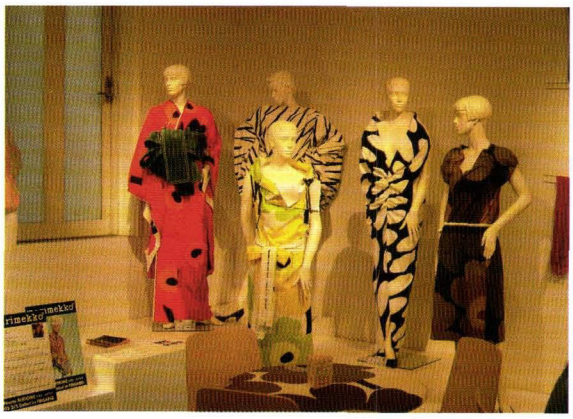
3



4

marimekko
marimekko

7



8